

松井弘樹、角田真由美、信澤毅 班

1. 前回のまとめから、特に印象に残ったこと
気づいたこと

- ・コーディネーターの必要性、継続性
- ・あちこちにベンチを置く
- ・人的支援の持続（長期的な支援ができる人員配置、長期的な支援ができる人材育成）

2. 人口減少対策としての広域コミュニティ
(小学校区)
取り組む上で大切にすべきことは何か
具体的方法、知恵・工夫、配慮点 など

- ・役割分担を軽くする
- ・誰でも参加（出てくること）ができる（年齢に関係なく子どもでも）
- ・住民でなくても可とする（在勤者等も受け入れる）
- ・時間制限
- ・ズルズル長くしない
- ・子ども会議
- ・幅広い年齢層での意見交換
- ・昔の遊び場
- ・子どもの遊び場を作る（集まれる場所）
- ・町区ごとの役員の見直し、広域化
- ・町区ごとの事業の見直し、広域化
- ・地域の文化的行事の継続について、区ごとに見直し広域化（祭りや防災訓練等）
- ・小学校区単位での協議体の組織（コミセンを中心に）
- ・隣の人の顔がわかるコミュニティづくり
- ・意見の出しやすい環境づくり

3. 「市民の自立した地域づくり」を進めるため
行政はどのような支援をすべきなのか
具体的取組、配慮点、寄り添い方 など

- ・行政職員だけのOB会を組織する
- ・長老の発掘、ご意見番
- ・女性だけの自主組織を作る
- ・原則代価
- ・適切な財政支援
- ・支援相談窓口の一本化(相談しやすい体制整備)
- ・広報
- ・「できない」「知らない」を言わない!
- ・考える行政職員になってほしい
- ・困ったときの市役所(〇〇課)
- ・いざという時に頼りになる職員

田中耕太郎、角田祐子、田嶋護、角田好夫 班

1. 前回のまとめから、特に印象に残ったこと
気づいたこと

- ・ボランティア等有償化
- ・財政支援
- ・コーディネーターの設置

2. 人口減少対策としての広域コミュニティ
(小学校区)
取り組む上で大切にすべきことは何か
具体的方法、知恵・工夫、配慮点 など

- ・年代を超えた人材を確保する
- ・色々なことに手を出せる世代(子育て世代は厳しい)
- ・話し合いをし皆の気持ちを聞く
- ・各年代に偏りなく情報発信する、参加してもらう
- ・年配者をないがしろにしない
- ・ターゲット(世代)
- ・目標、目的
- ・問題の共有化(正確に理解する)
- ・地域間の連携
- ・本音、本心
- ・積極的に行動してみる

3. 「市民の自立した地域づくり」を進めるため
行政はどのような支援をすべきなのか
具体的取組、配慮点、寄り添い方 など

- ・コミセンのレベルアップ
- ・人材の派遣
- ・色々なデータの取りまとめと発信
- ・必要な部分に対する財政の確保
- ・お金
- ・財政面の援助
- ・財政支援

佐藤亜貴、大嶋康、地野裕一、倉澤由之 班

1. 前回のまとめから、特に印象に残ったこと
気づいたこと

- ・つなぎ役(コーディネーター)
- ・お年寄りへの援助(ネット、SNS、オンライン)
- ・ネットワーク
- ・コーディネート

2. 人口減少対策としての広域コミュニティ
(小学校区)
取り組む上で大切にすべきことは何か
具体的方法、知恵・工夫、配慮点 など

- ・地区の役職と市行政
- ・役割の整理
- ・町の統合、区の統合(広域の町区)
- ・共同開催
- ・省力化
- ・子どもたちを巻き込む → 親がついてくる → 若い人の興味 → 人材発掘
- ・人材の発掘は難しい(特に若い人)
- ・金策、人材
- ・課題の共有(同じ地区でも町ごとに違う)
- ・森林文化を生かす
- ・やりがいのある仕事を見つける
- ・インフラの充実
- ・交通インフラ
- ・負担軽減

3. 「市民の自立した地域づくり」を進めるため
行政はどのような支援をすべきなのか
具体的取組、配慮点、寄り添い方 など

- ・行政業務の改善 → アウトリーチ
- ・地域にまぎれる
- ・教育の充実
- ・まとめ役に徹する(人)
- ・やはり金銭的な支援
- ・市の方針 → 各自治会で判断
- ・人との交流の場、援助

川端富夫、齋藤照恵、星野盾、武井秀一 班

1. 前回のまとめから、特に印象に残ったこと
気づいたこと

- ・つないでくれる人(コーディネーター)を中心におく
- ・コーディネーターの重要性を再認識した
- ・相談窓口
- ・コーディネーターの必要性とサポート

2. 人口減少対策としての広域コミュニティ
(小学校区)
取り組む上で大切にすべきことは何か
具体的方法、知恵・工夫、配慮点 など

- ・当事者感の醸成
- ・集まる口実が必要(楽しい…?)
- ・小さな声をもらさない
- ・意見を出してもらおう(箱に入れる)
- ・広域コミュニティのセル(細胞)化+人、今の町も大切に
- ・小学校区の維持
- ・プロフェッショナルの発掘(各分野のエキスパート)
- ・役割分担
- ・リーダーのデータベース化
- ・一人の人に負担を負わせない
- ・相手の思い
- ・情報発信(SNS)
- ・バックアップ

3. 「市民の自立した地域づくり」を進めるため
行政はどのような支援をすべきなのか
具体的取組、配慮点、寄り添い方 など

- ・調査相談サービス
- ・基本情報提供サービス
- ・できないことは代替案の提案（ベストがないならベターで）
- ・共有インフラの整備（広域コミュニティで使う）
- ・結果を出す
- ・迅速な一次対応
- ・集まる口実づくり（人と人が出会うため）
- ・レフェラルサービス（紹介）
- ・他所取組みの情報の発信
- ・月に1回時間を決めお茶会をする

伊藤智康、安原和宏、中村一喜、山田良美 班

1. 前回のまとめから、特に印象に残ったこと
気づいたこと

- ・プロのコーディネーター → 仕事にしている人が必要
- ・コーディネーターのコーディネート
- ・人口減少、高齢化により、今までの仕組みを変化させていかないと成り立たなくなる(パラダイム変化)
- ・成功事例の共有化

2. 人口減少対策としての広域コミュニティ
(小学校区)
取り組む上で大切にすべきことは何か
具体的方法、知恵・工夫、配慮点 など

- ・人権的配慮
- ・住民が地域を知る
- ・沼田市立全小・中学校交流できる催し(親子ともども)
- ・住んでいる人を把握し交流を図る
- ・高齢者(リタイア組)や主婦の参加
- ・有償ボランティア
- ・地域で仕事をつくる
- ・有償ボランティアの活用
- ・当事者意識を皆が持つ
- ・人任せにしない
- ・代表者を孤立させず支える配慮
- ・参加しやすい環境づくり
- ・運動会の復活(地区対抗、レクリエーション:○ スポーツ:×)
- ・人が集まりやすい環境づくり
- ・子どもは地域の宝
- ・環境づくり、雰囲気づくり(社会で育てる、安心できる)
- ・参加の垣根を低くする(思いつかないけど・・・)
- ・情報共有
- ・役(町内及び行政)の見直し
- ・役(町内及び行政)の意義を知ってもらう
- ・ITの活用(情報共有・発信)
- ・活動内容の透明性
- ・情報提供の早さ

3. 「市民の自立した地域づくり」を進めるため
行政はどのような支援をすべきなのか
具体的取組、配慮点、寄り添い方 など

- ・情報発信
- ・たらい回しにしない
- ・大きな声に振り回されない
- ・早めに(決まる前に)情報を出すこと
- ・人材育成
- ・困ったときに相談に乗って欲しい
- ・つかず離れず
- ・地域住民をコーディネーターに育成する
- ・研修
- ・お徳感承認
- ・口は出さずにご褒美を出す、褒める(市民が欲するもの 金?もの?名誉?やる気が出るもの?)
- ・行政の世話にならないとポイントがもらえる(何かに交換できる)
- ・「デマンドバス(高齢者の家、好きな場所での乗降を可能にする)」